岐阜薬科大学新キャンパス整備要求水準書等作成及び事業者選定支援業務委託
プロポーザル評価要領

1. 評価要領の位置付け

本評価要領は、岐阜薬科大学新キャンパス整備要求水準書等作成及び事業者選定支援業務委託事業者選定に係る公募型プロポーザル実施要領（以下「実施要領」という。）に基づき、評価点の算出方法及び受託者の選定方法を示すものである。

2. 評価方法及び受託者の選定

- (1) 客観的評価、業務提案書評価及び価格評価を行い、最優秀提案者を特定する。
- (2) 客観的評価及び価格評価は、事務局が技術者資料及び見積書を基に参加者の審査を行う。
- (3) 業務提案書評価は「岐阜薬科大学新キャンパス整備要求水準書等作成及び事業者選定支援業務委託プロポーザル審査委員会」（以下「審査委員会」という。）が業務提案書、プレゼンテーション及びヒアリングにより審査を行う。
- (4) 客観的評価、業務提案書評価及び価格評価の評価点合計は下記のとおりとする。

評価項目	評価配点	備考
客観的評価	120点	
業務提案書評価	240点	60点×委員4名
価格評価	40点	
総合計	400点	

- (5) 審査委員会は評価点の総合計が最も高い者から最優秀提案者1者、次点提案者1者を特定する。

3. 評価基準

3-1. 客観的評価

審査内容及び配点基準の明細

客観的評価の審査内容及び配点基準は、以下のとおりとする。

評価項目		評価基準		配点		
客観的評価	(1) 参加者の評価	ア 技術職員数	技術職員数を評価する	4		
		イ 有資格者数	有資格者数を評価する	3		
		ウ 実績	実績の種類、件数について評価する	15		
		小 計			22	
	(2) 配置技術者の資格	専門分野の技術者資格	各担当分野について、資格（取得後1年以上のものに限る）の内容により評価する。	管理技術者	4	
				主任担当者	建築（総合）	4
					建築（構造）	4
					電気設備	4
					機械設備	4
					建設コスト管理	4
		工事施工計画	4			
	小 計			28		
	(3) 配置技術者の業務実績	同種・類似業務の実績（実績の有無、件数及び携わった立場）	次の順で評価する。 ①同種業務の実績 ②類似業務の実績 その際に携わった立場により評価する。	管理技術者	10	
				主任担当者	建築（総合）	10
					建築（構造）	10
電気設備					10	
機械設備					10	
建設コスト管理					10	
工事施工計画		10				
小 計			70			
合 計				120		

(1) 参加者の評価（様式3及び様式4）

参加者に所属する技術職員数及び有資格者数について評価する。

ア 技術職員数【4.0点】

技術職員数の評価は下記による。

技術職員数（人）	評価点
150～	4.0
100～149	3.0
50～99	2.0
1～49	1.0

イ 有資格者数【3.0点】

有資格者数の評価は下記による。

有資格者数（人）	評価点
100～	3.0
50～99	2.0
1～49	1.0

※有資格者数は、CCMJ、一級建築士等担当分野に応じた必要資格の有資格者数とする。

ウ 参加者の同種・類似業務の実績【15.0点】

同種業務及び類似業務の実績（実績の有無及び件数）について評価を行う。平成26年4月1日以降に受託し履行した業務実績（最大5件）を1件ごとに、基礎配点（A）3点として、区分係数（B）及び業務係数（C）を乗じた点数を合計し、評価する。

①実績件数と基礎配点

最大件数	基礎配点
5	3

②同種及び類似業務実績

実績	区分係数
同種業務	1.0
類似業務	0.8

③業務内容

業務内容	業務係数
コスト管理含む	1.0
コスト管理 含まない	0.8

※評価点の計算は下表のとおりとなる。

基礎配点 A	区分係数 B		業務係数 C		評価点 A×B×C	合計
（最大件数5） 3.0	同種業務	1.0	コスト管理業務を 含む	1.0	最大3.0	最大 15.0
	類似業務	0.8	コスト管理業務を 含まない	0.5		

(2) 配置技術者の資格（様式5-1～様式5-7）

配置技術者の有する資格（初回登録後1年以上のものに限る。）について、下表の資格評価表により評価する。（【基礎点分14.0点】+【加算点分14.0点】最大28.0点）

各分野	評価する技術者資格		評価点	注釈
管理技術者	基礎点	CCMJ かつ一級建築士	2.0	※1
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ（認定ファシリティマネージャー）	0.5	※2
		技術士※3、一級建築施工管理技士、	1.0	※7
建築（総合）	基礎点	CCMJ	2.0	※1
		一級建築士	1.0	
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ（認定ファシリティマネージャー）	0.5	※2
建築（構造）	基礎点	CCMJ	2.0	※1
		構造設計一級建築士	2.0	
		一級建築士	1.0	
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ（認定ファシリティマネージャー）	0.5	※2
		技術士※4、一級建築施工管理技士	1.0	※7
電気設備	基礎点	CCMJ	2.0	※1
		設備設計一級建築士	2.0	
		一級建築士、建築設備士	1.0	
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ（認定ファシリティマネージャー）	0.5	※2
		技術士※5、一級電気工事施工管理技士・第一種電気主任技術者	1.0	※7
二級電気工事施工管理技士・第二種電気主任技術者	0.7			
機械設備	基礎点	CCMJ	2.0	※1
		設備設計一級建築士	2.0	
		一級建築士、建築設備士	1.0	
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ（認定ファシリティマネージャー）	0.5	※2
		技術士※6、一級管工事施工管理技士	1.0	※7
		二級管工事施工管理技士	0.7	
建築設備検査資格者	0.5			

建設コスト管理	基礎点	CCMJ	2.0	※1
		建築コスト管理士	2.0	
		建築積算士	1.0	
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ (認定ファシリティマネージャー)	0.5	※2
		一級建築士、技術士※3、一級建築施工管理技士	1.0	※7
工事施工計画	基礎点	CCMJ	2.0	※1
		一級建築施工管理技士	2.0	
	加算点	CASBEE 建築評価員	0.5	※2
		CFMJ (認定ファシリティマネージャー)	0.5	※2
		一級建築士、技術士※3、	1.0	※7

※1：各分野における基礎点について、複数資格を持っている場合は上段に記載のものを優先する。

※2：各分野の技術者において「CASBEE 建築評価員」、又は「CFMJ 認定ファシリティマネージャー」の資格を所持している場合は各評価点に「0.5」を加算する。

※3：管理技術者、建築（総合）、建設コスト管理、工事施工計画の主任担当者において、技術士建設部門（施工計画、施工設備及び積算）又は（建設環境）の資格を所持している場合は、評価点に「1.0」を加算する。

※4：建築（構造）の技術士は、建設部門（土質及び基礎）又は（鋼構造及びコンクリート）のいずれかとする。

※5：電気設備の技術士は、電気電子部門（全分野）とする。

※6：機械設備の技術士は、機械部門（動力エネルギー）、（熱工学）、（流体工学）又は衛生工学部門（空気調和）、（建築環境）のいずれかとする。

※7：CASBEE 建築評価員、CFMJ 認定ファシリティマネージャー以外の加算対象となる資格については、ひとつのみ選択できる。

(3) 配置技術者の業務実績【70点】（様式5-1～様式5-7）

同種業務及び類似業務の実績（実績の有無及び件数）について評価を行う。平成26年4月1日以降に受託し履行した業務実績（最大5件）を1件ごとに、基礎配点（A）2点として、区分係数（B）及び担当係数（C）を乗じた点数を合計し、評価する。

① 実績件数と基礎配点

最大件数	基礎配点
5	2.0

② 同種業務及び類似業務実績

実績	区分係数
同種業務	1.0
類似業務	0.8

③ 業務担当実績

過去の実績での立場	担当係数
管理技術者又はこれに準ずる立場	1.0
主任担当者又はこれに準ずる立場	0.8
担当者又はこれに準ずる立場	0.5

※計算は下表のとおりとなる

担当業務分野	基礎配点 A	区分係数 B		担当係数 C		評価点 A×B×C	合計
		同種	類似	管理技術者	主任担当者 担当者		
管理技術者	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	最大 70.0
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		
建築 (総合)	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		
建築 (構造)	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		
電気設備	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		
機械設備	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		
建設コスト 管理	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		
工事 施工計画	(最大件数 5) 2	同種	1.0	管理技術者	1.0	(5 件で最大 10.0) 最大 2.0	
		類似	0.8	主任担当者 担当者	0.8 0.5		

3-2. 業務提案書評価

(1) 事前審査

提出された業務提案書は、提案者番号を付した後、附属資料を添えて各審査員へ事前に配布する。この際、提案者名を伏した上で、客観的評価の資料を添付する。

(2) 業務提案書評価方法

ア 業務提案書は提案者の名を伏した上で、その内容についてのプレゼンテーション及びヒアリングの結果を含め、本評価要領に基づいて審査委員会が評価する。

イ 評価項目及び評価基準、配点は以下のとおりとする。

① 業務実施方針【30点×4人】最大120点（様式6-2）

評価項目	評価基準	配点
1. 本業務に対する提案者の取り組み方針と体制	取り組み意欲の高さや積極性	5
	発注者を支援する姿勢、業務への工夫と配慮	5
2. 各業務担当チームの特徴	担当者の技術力の高さ	5
	チーム配置の適正度（他業務との兼務状況など、業務遂行能力を示すこと。）	5
3. 業務上、特に配慮する事項	業務の目的、内容や課題に対する理解度	5
4. 総合判定	総合的見地からの考え方の的確性	5
委員1人あたりの持ち点		30

② 業務提案（テーマ1、2）【30点×4人】最大120点（様式6-3、様式6-4）

評価項目	評価基準 (テーマ毎に評価する)	配点
【テーマ1】 建設資材の高騰や労務単価の上昇により、建設工事費の増加が想定される中で、DB方式による工事発注を踏まえた「発注者体制の強化」、「コストの適正化」、「品質管理の徹底」などの対策及び基本設計内容の具現化方法について	コスト上昇を踏まえたDB発注による対策と基本設計の具現化に関して、的確性や実現性があり、業務や与条件に対し、理解度の高い提案となっているかについて評価する。	15点 × 2テーマ
【テーマ2】 建設資材の高騰や労務単価の上昇により、建設コストの積算が困難な情勢を踏まえつつ、地元建設市場の状況を勘案したDB応札者を確保できる方法の提案について	建設コストの最適化とDB応札者の確保に関して、的確性や実現性があり、業務や与条件に対し、理解度の高い提案となっているかについて評価する。	
委員1人あたりの持ち点		30

(3) 採点はプレゼンテーション及びヒアリング終了後、各委員が以下の評価基準に基づき評価を行う。

評価項目	評価基準	評価点
業務実施方針	業務実施方針が非常に優れている	5
	業務実施方針が優れている	4
	業務実施方針が適切である	3
	業務実施方針がやや劣っている	2
	業務実施方針が劣っている	1

評価項目	評価基準	評価点
業務提案（テーマ1、2）の提案に対する評価	具体的な提案の的確性・実現性が非常に優良である	7.5
	具体的な提案の的確性・実現性が優良である	6.0
	具体的な提案の的確性・実現性が良好である	4.5
	具体的な提案の的確性・実現性がやや不十分である	3.0
	具体的な提案の的確性・実現性が不十分である	1.5

3-3. 価格評価

評価項目及び評価基準、配点は以下のとおりとする。【40点】（自由書式）

評価項目	評価基準	評価点
見積書	<p>見積書の見積金額（税込）によって評価する。</p> <p>評価点 = $a \times ((\text{予定価格} - \text{見積金額}) / \text{予定価格})$</p> <p>※算出した評価点に端数が生じる場合は、小数点第5位以下を切り捨てとする。</p> <p>※評価点は40点を限度とする。</p> <p>※aは非公表とする。</p>	40